

女性活躍応援事業【福井市】

地域の実情と課題

女性の就業率や共働き率が高く、また女性の正規雇用の割合も高いが、女性の管理職率は低い。
家庭生活の面においては、男性の家事、育児等への参画時間が短く、女性の家庭での負担が大きい。
また、学生においては、県外の大学や専門学校に進学後、県外の企業に就職する割合が高く、若年層の転出超過が続いている。

目的・目標

- ・自身の将来設計を立てることや、福井で就職することに関心を持ったと答える女子学生の割合【目標値：90%】
 - ・キャリアアップに向けて意欲が高まったと答える女性の割合【目標値90%】
 - ・家事、育児参画に対し意識が高まったと答える割合【目標値：80%】
 - ・「子育てファミリー応援企業」の登録数【目標値：200社】、福井市内の「ふくい女性活躍推進企業」の登録数【目標値：150社】
- ※共に令和3年度末時点

事業の特徴

「学生編」として学生を対象としたライフデザイン出前講座、「働く女性編」として女性を対象とした交流会、「家庭編」として家庭をもつ男性等を対象とした家事、育児のシェアに関する出前講座、「企業編」として経営者や人事担当者を対象としたセミナー等を実施している。
※「学生編」、「働く女性編」について、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事業を中止した。
対象を分類し、それぞれの課題に応じた事業を展開することで、より効果的な女性活躍の推進を図る。

連携団体

福井市女性活躍推進協議会と連携して事業を実施し、効果や課題を検討した。

事業の効果

- <学生編>
福井で就職することに関心を持ったと答える学生の割合97.1%（R元年度）
- <働く女性編>
キャリアアップへの意識が高まったと答える女性の割合98.5%（R元年度）
- <家庭編>
家事、育児参画に対し意識が高まった割合50.0%（R2年度）
- <企業編>
「子育てファミリー応援企業」の登録数196社（R2年度）、福井市内の「ふくい女性活躍推進企業」の登録数177社（R2年度）

今後の課題

女性の就業率や共働き率が高い一方で、女性の管理職率が低いため、女性管理職の増加に向けた取組が必要である。
また、男性の働き方改革や家事、育児参画への意識の向上を図り、女性の負担を軽減し、男女ともに活躍できる職場づくりを進める必要がある。
加えて、若年層の転出超過が進んでいるため、学生の段階から福井で働く魅力を伝えていく必要がある。

事業の概要

家庭編

《夫婦で納得「家事・育児シェア見える化シート」活用講座》

「家事・育児シェア見える化シート」の活用講座を開催し、夫婦が理想の家事・育児のシェアについて話し合うことで、男性の家事・育児への参画意識の向上や「朝カジプラス10分」を促進した。

事業概要

	夫婦で納得「家事・育児シェア見える化シート」活用講座
実施回数	年間4回（8/21、8/28、9/6、11/29）
会場	アオッサ6階レクリエーションルーム 等
対象	夫婦や子どもを持つ家族など
参加者数	合計：77名
内容	朗読劇「六花（りっか）」による夫婦の会話劇により、「家事・育児シェア見える化シート」の活用方法をレクチャーし、実際に家庭での活用を促した。   
広報	女性の負担軽減を図るとともに、男性の家事シェアへの意識を高めるため、「家事・育児シェア見える化シート」を活用したPR動画を制作・配信している。 YouTubeチャンネル名「福井市女性活躍促進課」

事業の概要

企業編

《企業向けオンラインセミナー「コロナウイルスを機に考えなおす働き方とテレワーク」》

コロナウイルスの影響によるテレワーク等への関心の高まりを、多様な働き方を実現する好機と捉え、テレワークや働き方改革の目的を解説し、経営への効果等を理解していただくことで、各社で取組を進める機会を提供した。

事業概要

コロナウイルスを機に考えなおす働き方とテレワーク							
開催日	令和2年7月29日（水）						
対象	福井県内企業の経営者・人事担当者など						
参加者数	57名（オンラインにて参加）						
講師	宮崎 翔太 氏（Empowered JAPAN実行委員会 事務局長） （日本マイクロソフト株式会社 政策渉外・法務本部 地方創生担当部長）						
内容	<ul style="list-style-type: none">・テレワークとは何か・日本が直面している課題・コロナ禍におけるテレワークの状況・日本マイクロソフトの働き方・テレワーク×地域活性化の可能性 <p style="text-align: center;">↓</p> <table border="1"><tr><td>テレワークは目的ではなく</td><td>手段</td></tr><tr><td>テレワークは業務を見直す</td><td>きっかけ</td></tr><tr><td>テレワークは経営戦略に不可欠な</td><td>選択肢</td></tr></table>	テレワークは目的ではなく	手段	テレワークは業務を見直す	きっかけ	テレワークは経営戦略に不可欠な	選択肢
テレワークは目的ではなく	手段						
テレワークは業務を見直す	きっかけ						
テレワークは経営戦略に不可欠な	選択肢						



事業の概要

企業編

《企業向けオンラインセミナー「コロナウイルスを機に考える多様な人材を生かす働き方」》

コロナウイルスの影響によるテレワーク等への関心の高まりを、多様な働き方を実現する好機と捉え、人事としての考え方や、活躍を促す働き方に関する講演のほか、県内企業のテレワーク導入事例紹介を行い、各社で取組を進める機会を提供した。

事業概要

コロナウイルスを機に考える多様な人材を生かす働き方

開催日	令和3年2月8日（月）
対象	福井県内企業の経営者・人事担当者など
参加者数	44名（オンラインにて参加）
講師	島田 由香 氏 （ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役 人事総務本部長）
内容	<ul style="list-style-type: none">・人事としての役割・これからの働き方や組織の在り方・ユニリーバの働き方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">働く時間と場所の柔軟性がパフォーマンスの向上に繋がる</div> <ul style="list-style-type: none">・福井県内企業のテレワークに関する事例紹介 ①福井鋳螺株式会社、②ジビル調査設計株式会社<ul style="list-style-type: none">・テレワーク実施者の労務管理・テレワーク定着に向けての工夫した点・テレワークの成果、課題、展望

